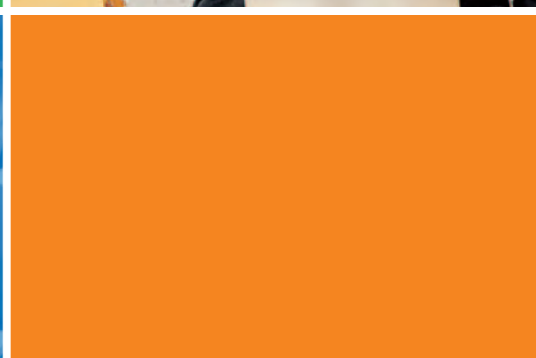
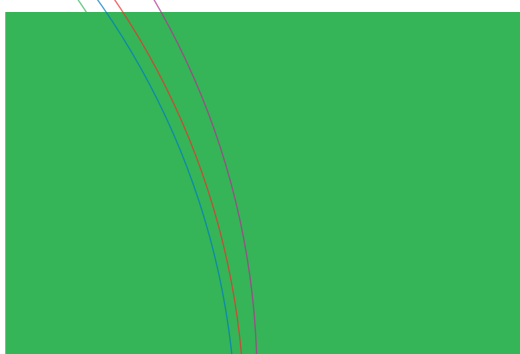


SDMI

System Design and Management

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科



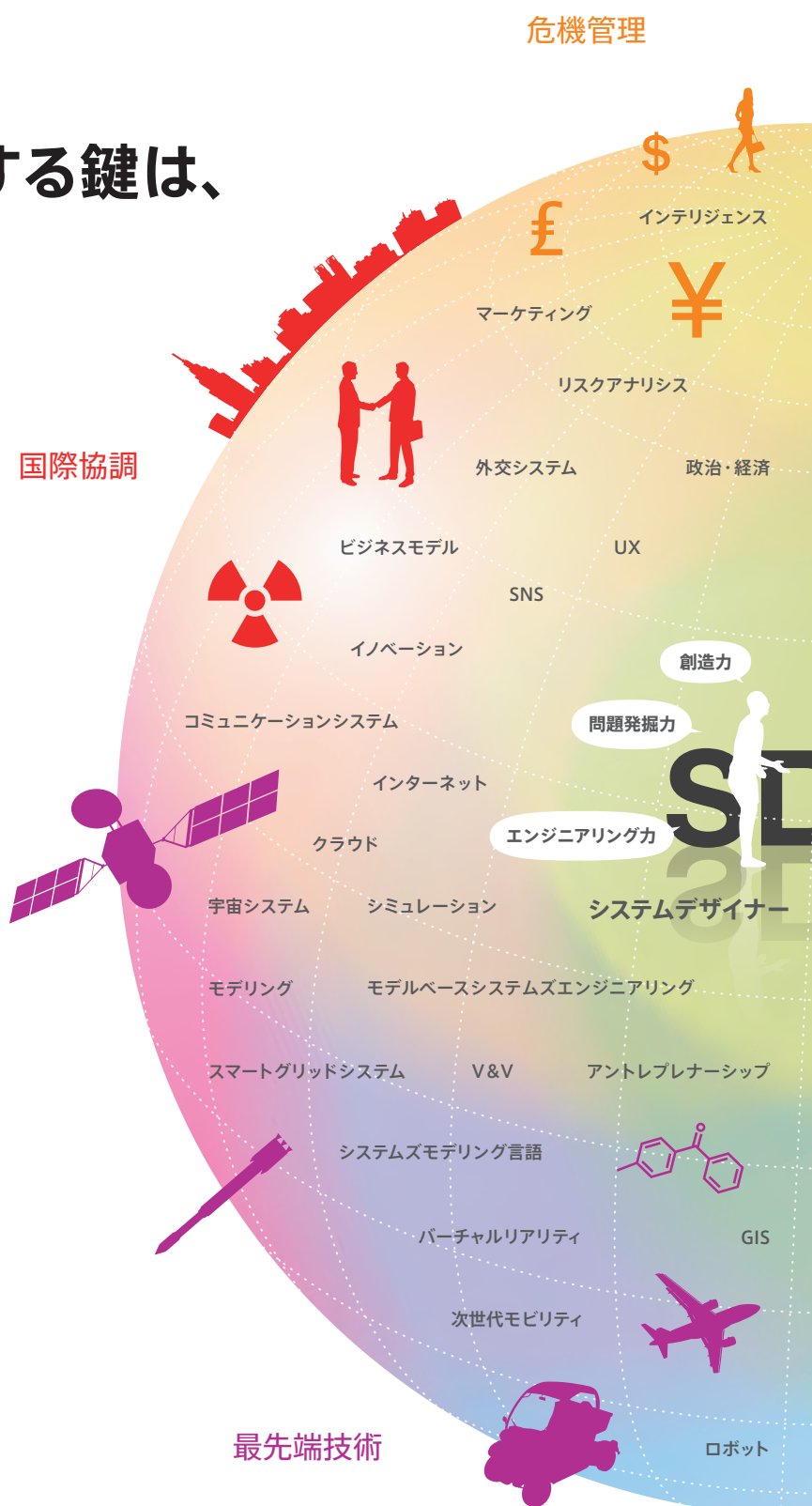
科学技術、社会、人間。 現代の諸問題を解決する鍵は、 システムにある。

現代社会の多種多様な問題の解決を図る 全体統合型学問

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（慶應SDM）は、科学技術領域、社会領域、人間領域を問わず、広く「システム」という共通の視座から問題解決に取り組む独立大学院です。

現代社会においては、さまざまなシステムが大規模・複雑化し、数々のトラブルや事故、事件、紛争を引き起こしています。そうした問題を解決するためには、部分に特化する専門的学問だけでは不十分です。システムの全体と部分の関係を的確に分析し、解決策を創造的にデザインして、着実にマネジメントする全体統合型の学問＝SDM学（システムデザイン・マネジメント学）とその実践が求められます。慶應SDMはそうした要請に応えるため、2008年に設立されました。

科学技術、環境問題、政治、安全保障、ビジネス、組織、コミュニティ、メディア、交通、教育、人間心理……慶應SDMでは、環境共生、安心・安全、最先端技術、国際協調、危機管理といった社会のニーズを考慮しつつ、あらゆる分野についてシステムの観点から研究と問題解決を行っています。現実世界の課題に挑み、未来を創るための研究と実践の場、それが慶應SDMです。





システムズエンジニアリングと デザイン思考の融合

慶應SDMの問題解決手法には大きく2つの柱があります。1つは「システムズエンジニアリング」。もともとは航空宇宙機器や軍事システムなどの大規模システムを、多数のスタッフにより着実なステップを踏みながら作りあげていくことを目的として発展しました。その後、都市、経営、医療、インターネットなどにも応用され、社会領域も取り扱うようになりました。2つめは「デザイン思考」。モノづくりをしながら自由に発想を広げていく開発手法で、フィールドワークやブレインストーミング、プロトタイプを使ったワークショップなどを通じて参加者のクリエイティビティを引き出すことを重視します。従来、システムズエンジニアリングとデザイン思考では考え方が相反すると思われてきました。しかし、システムズエンジニアリングだけではユーザーとの共感やクリエイティビティの飛躍が難しく、デザイン思考だけではシステムティックに具現化する面が不十分です。慶應SDMでは両者を組み合わせることによって大きなメリットが得られると考え、両者を補完し統合する開発手法を構築しました。日本はもちろん、世界でも先進的な取り組みです。

大きな構想を描き、 世界をリードしていく人材を育てる

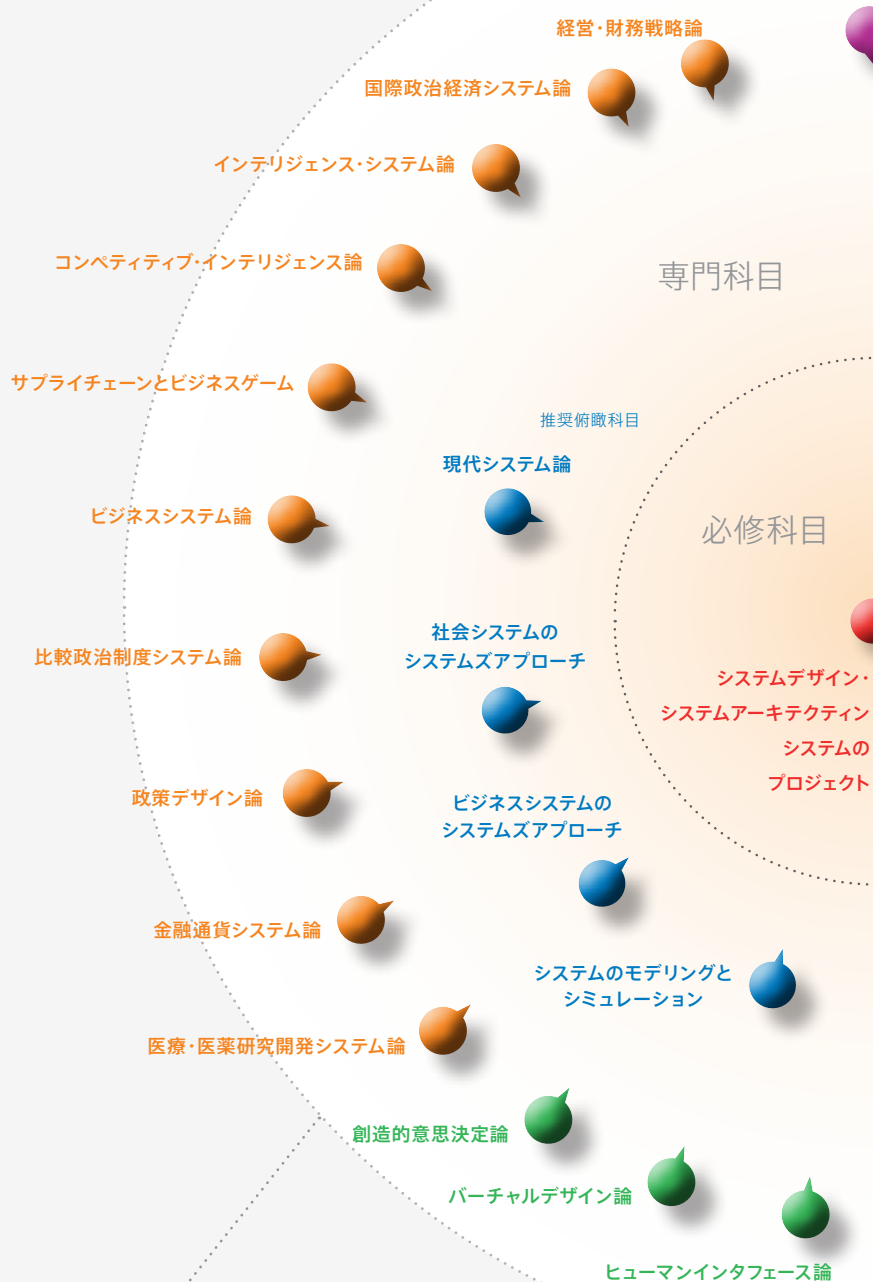
慶應SDMでは、全体統合型の解決策を提案しながらミクロのレベルまで解決策を精緻化できるシステムズデザイナーやプロジェクトリーダーの育成を図っています。現実世界の課題に対して大きな構想を描き、さまざまなステークホルダーとの調整を行いながらシステムを創っていくには、SDM学をマスターするとともに多くのスキルを身につける必要があります。エンジニアリング力、問題発掘力、創造力、統合力、コミュニケーション力、マネジメント力。こうした能力を備え、世界をリードしていく次世代リーダーを輩出するために、慶應SDMでは多様なプログラムを用意しています。

知識と体験、両面からアプローチし、能力を広げていく。

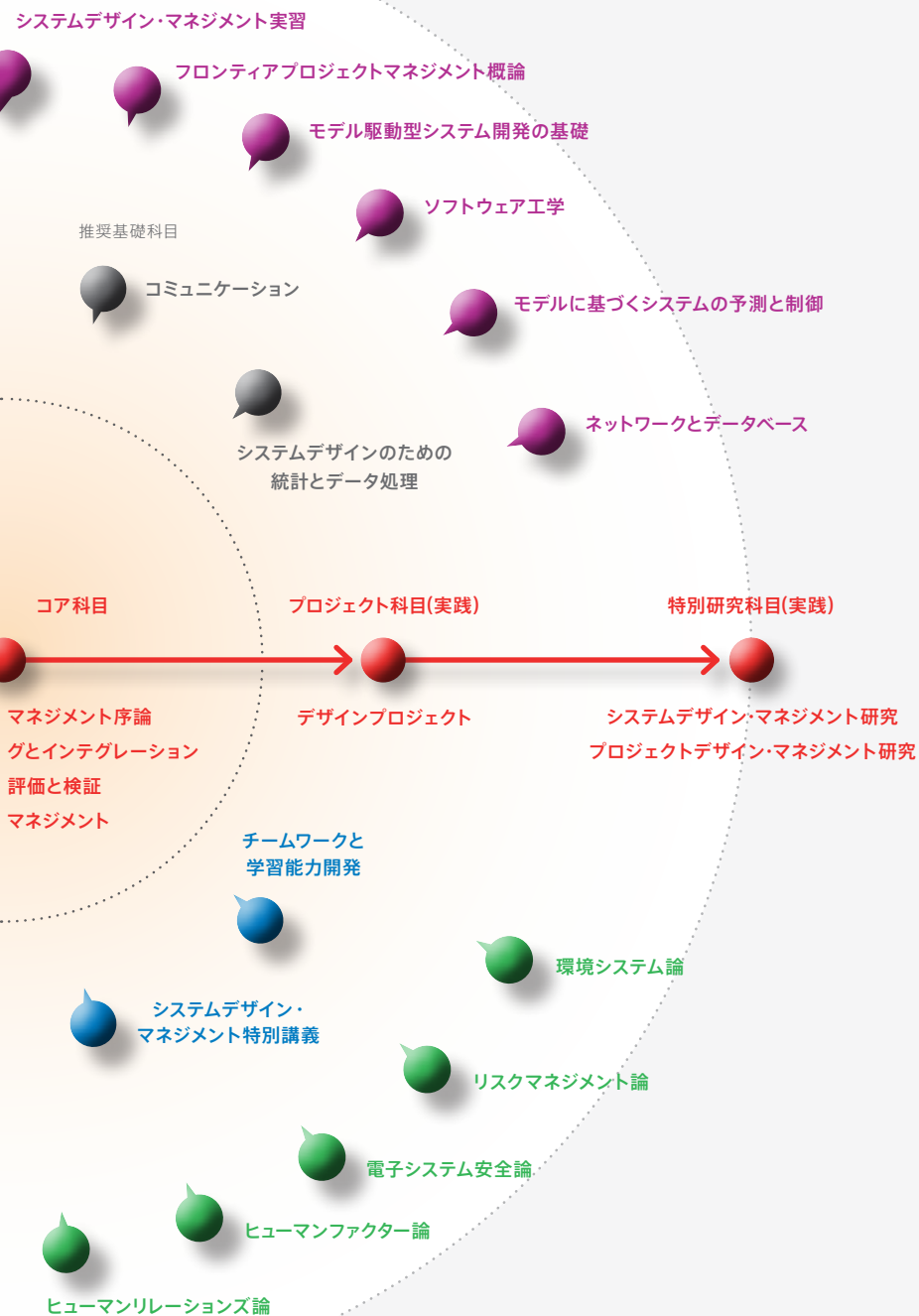
慶應SDMでは、SDM学の学問的基礎や専門分野の知識を学ぶとともに、現実の問題解決に取り組むカリキュラムを通じて実践の体験を積んでいきます。知識と体験を組み合わせることによって、システムを深く理解し、的確に構築・マネジメントしていく総合力を身につけられるようになっています。

政治・経済・ビジネス系

修士課程設置科目



システムズエンジニアリング・ 技術社会システム系



環境共生・安全・人間系

知識と体験を統合することで、システムに取り組む総合力を高めていく。それが慶應SDMのカリキュラムのコンセプトです。

修士課程では、まず必修のコア科目「システムデザイン・マネジメント序論」「システムアーキテクティングとインテグレーション」「システムの評価と検証」「プロジェクトマネジメント」を通じて、SDM学のベースとなるシステムズエンジニアリングの考え方と方法論を学びます。また、システムを構築するうえでの数学的基礎を理解するために「システムデザインのための統計とデータ処理」を、多くの人々と協働していくうえでの基本的スキルを身につけるために「コミュニケーション」を、それぞれ履修することが推奨されています。

SDM学の基礎を学んだうえで、自分の興味や関心に従って専門科目を履修し、専門性を深めていくことができます。個別分野のシステムを扱う一般の専門科目と、複数の分野を横断的に捉える推奨俯瞰科目があり、さまざまな分野に向かって自分の知識を同心円のように広げていけるようになっています。

一方、慶應SDMでは実践的体験を重視しており、修士課程の学生は1年時の「デザインプロジェクト」で現実の課題にグループで取り組みます。そして、「特別研究科目」でさらなる実践的研究を行い、その結果を修士論文にまとめます。

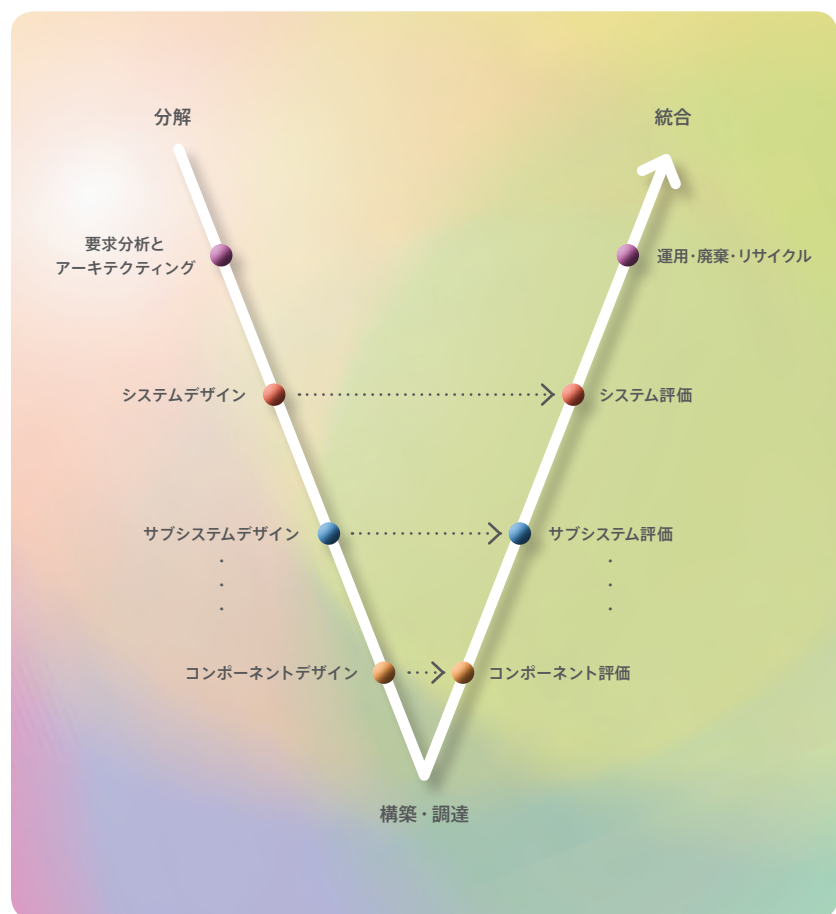
なお、左のカリキュラムは日本語の授業ですが、この他に英語の授業も多数開講しています。また、専門的研究に多くの時間を使って研究能力を磨く「リサーチインテンシブコース」と、すでに専門的能力を有する社会人を対象として講義履修に比重を置く「ラーニングインテンシブコース」の2コース制をとっており、経験とニーズに応じてコースを選ぶことができます。

後期博士課程は専門的な研究を中心に行う課程です。SDM学の基本を共有するために、コア科目やプロジェクト科目などの受講を強く推奨しています。

知識をつなぐ。

修士課程では、まずシステムズエンジニアリングの基礎と基本的スキルを習得します。
そして、それをベースとしてさまざまな分野のシステムについて専門的に学んでいきます。
全体に通底する物の見方・方法論を身につけつつ、各分野の多種多様な事例や解決策を学ぶことで、
さまざまな知識をつなぎ、真に役に立つ知恵へと昇華させていくことができます。

修士課程に入った学生は最初にシステムズエンジニアリングの重要な概念であるVモデルについて徹底的に学びます。
Vモデルでは「分解」と「統合」によってシステムを構築していきます。Vの左側が分解、右側が統合です。大規模・複雑なシステムを、サブシステムからより小さな単位へと順次分解していき、全体から詳細までのデザインが終了したら、システムを順に統合していきます。Vの左から右に向かう矢印は、デザインの各レベルに対応して検証と有効性確認 (Verification and Validation) を行うことを表しています。
Vモデルは全体と部分の関係性を捉えるための大きな枠組みとして活用でき、科学技術領域、社会領域、人間領域の幅広いシステムの開発に応用できます。Vモデルをベースとすることによって、別種のシステムや複合したシステムの開発も行えるようになります。
Vモデルの基礎知識を習得した後は、さまざまな専門科目を履修していきます。Vモデルという共通の枠組みを通じて、ばらばらだったさまざまな知識をつなぎ、自分の中で体系化していくことができます。



Vモデルは「分解と統合」、「デザインと評価」が重要であることを表しています。慶應SDMでは、Vのはじめに要求分析とシステムアーキテクティングがあることを強調します。地球環境・社会環境から他社・顧客まであらゆるステークホルダーからの多様な要求を確実に定義し、情報共有して、システムの全体像をアーキテクティングしたうえで、Vモデルに基づく分解と統合、デザインと評価(検証と有効性確認)を行います。



先導者達の知恵に学ぶ。 SDM特別講義

大規模・複雑化した現代のシステムに挑むには、書物のうえの知識や日々の体験だけでは足りません。SDM特別講義は、現代社会の最前線で優れたシステムを成功裏に創りあげた先導者達のさまざまな知恵——システムデザイン・マネジメントのグッドプラクティス——を学ぶ場です。経済界、政界、科学技術界など、各界の第一人者を招き、膝を交えて議論を戦わせることができます。現代の大規模・複雑システムと格闘した先導者達の内に蓄えられた知恵と人間性から何ものかを吸収する貴重なチャンスです。

過去の実施例（肩書きは当時のもの）

池上 彰（ジャーナリスト）「世界地図を読み解く」

池田 守男（(株)資生堂相談役）「2020年に描く新しい公益の姿」

北城 悟太郎（日本アイ・ピー・エム(株)最高顧問）「日本経済の課題とイノベーションによる経済成長」

紺野 登（多摩大学大学院経営情報学研究科教授、KIRO(株)代表）「知識経営とデザイン」

坂根 正弘（コマツ代表取締役会長）「コマツの経営構造改革 ～強みを磨き、弱みを改革～」

松岡 正剛（編集工学研究所所長・イシス編集学校校長）「編集のシステムの思考とは」

村上 憲郎（(株)村上憲郎事務所代表取締役、元・グーグル米国本社副社長兼日本法人社長）「スマートグリッドが切り開く新生スマート日本」

山崎 直子（宇宙飛行士）「宇宙機におけるシステム設計」

社会人学生にも 学びやすく。

慶應SDMには、社会人として仕事しながら通っている学生也大勢います。そうした学生も学びやすいよう、さまざまな工夫を行っています。

5時限は17時15分から、6時限は19時から開始し、土曜も一日中授業を行っています。また、多くの授業をビデオに収録し、アーカイブ教材として保管しています。e-learningはそうした教材をインターネット経由で事後に視聴し、単位の取得を行える仕組みです。履修申告した授業を遠隔地での学習や自宅での復習のために視聴できます。



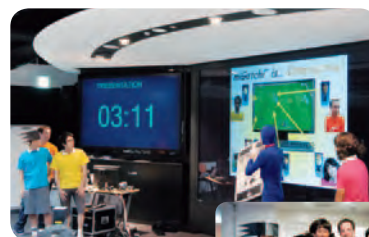
現実の課題に立ち向かう。

慶應SDMでは、さまざまな分野のシステムについて単に知識を得るだけでは終わりません。

新しいシステムを提案し、その成果を検証することを重視しています。

修士課程の学生は「デザインプロジェクト」や特別研究科目で現実の課題に取り組み、実践経験を積むとともに、学んだ知識を、体験を通じて自分の血肉にしていきます。

基本から実践へ。デザインプロジェクト



修士課程の1年時に履修するデザインプロジェクトはシステムの構築とマネジメントを実践する第一歩といえます。

学生は、まず考え方・方法論・手法の基本を学びます。次に実践的学習を行い、海外連携大学から招いた講師による講義を受けます。さらにプロポーザーから提案されたテーマにグループで取り組み、問題解決の提案を行います。

システム思考×デザイン思考を体験

デザインプロジェクトではコア科目で学んだシステムズエンジニアリングやシステム思考

を実践するとともに、デザイン思考のプロセスと手法を実体験の中で学びます。デザイン思考はクリエイティブなデザインの実現を目指す開発手法で、人々の行動を観察するオブザベーション、グループによるブレインストーミングやワークショップ、実際にモデルを作りながら人々の共感を高めていくプロトタイピングを重視します。慶應SDMではVモデルに従ってデザイン思考のプロセスと手法を独自に整理しており、従来のデザイン思考よりシステムティックでイノベティブな方法を学ぶことができます。グループで提案した新しいシステムは、さらに修士論文や政策・新規事業・起業にもつながっています。

「Safety and Security」という大テーマのもと、学生チームが導き出したソリューションの例

**安全とセキュリティのブランドイメージ創造
— 好循環ビジネスモデル**

プロポーザー：アディダスジャパン株式会社

**ワクチン冷蔵装置向けバックパック型
マルチエネルギーシステム**

プロポーザー：株式会社インフラ・イノベーション研究所

**日本における安心・安全な太陽光発電
— デュアルモードソーラーパネルシステムの検証**

プロポーザー：デルフト工科大学

安全に関するプレミアムポイントシステム

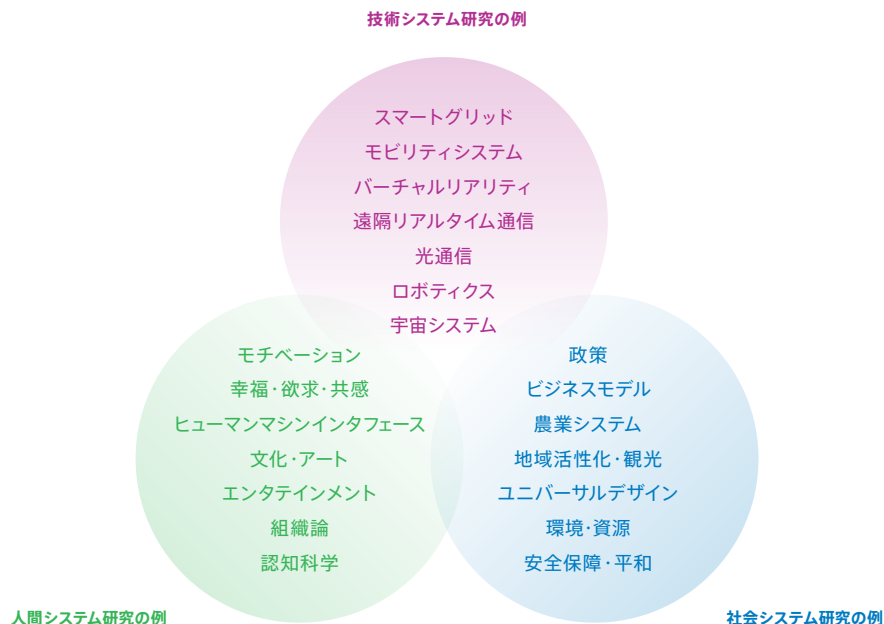
プロポーザー：スズキ株式会社

**交通事故リスク削減を目指した
自転車シミュレーターのデザイン**

プロポーザー：東芝システムテクノロジー株式会社

ラボに参加し、実践的研究を論文にまとめる。 特別研究科目

修士課程の研究の中心は特別研究科目の「システムデザイン・マネジメント研究」と「プロジェクトデザイン・マネジメント研究」です。学生はラボ(研究ユニット)に参加しながら、2年間(標準)にわたって特定のシステムの研究に取り組みます。学生同士の連携、複数の教員と学生の連携、共同研究企業や他大学との連携など、協働により研究を行うことを強く推奨しています。複数のラボに参加して研究することも可能です。研究の成果は修士論文としてまとめます。慶應SDMで得た知見と体験の集大成とすることが期待されます。

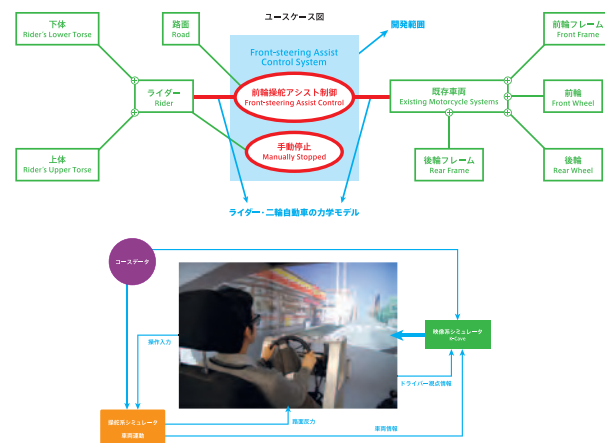


研究事例

技術・社会システムデザインの研究

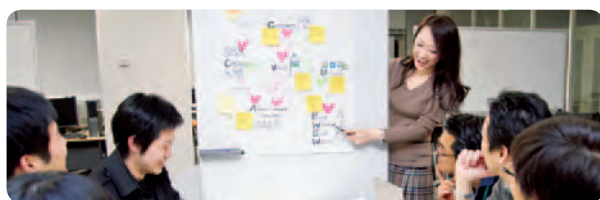
大規模・複雑な技術システムや社会システムの課題を解決するため、モデリングとシミュレーションを駆使し、安全で高信頼のシステムをデザインしています。要求と機能を明確にしたうえで、概念設計の候補を洗い出し、V&V(Verification and Validation)を計画し、実行します。右の事例は、システムズモデリング言語SysMLを用いた次世代モビリティシステムの提案と、没入型ドライビングシミュレータを援用したシステムデザインです。他にも、エネルギーマネジメント、スマートグリッドシステム、モビリティシステムマネジメント、次世代GPSシステム、光通信システム、コミュニケーションシステム、ヒューマンマシンシステム、宇宙システム、ビジネスシステム、NPO/NGO、政治・経済・外交システム、文化・アートシステムに関する研究を行っています。

SysMLなどのモデリング・シミュレーションを使った研究例



人間中心システムデザインの方法論・手法の研究

SDM学の基盤であるシステム思考・デザイン思考の研究や、ワークショップを推進するための基本的な方法論や手法の開発も行っています。下記の事例は、ステークホルダーの関係性を明らかにするのみならず、行為の原因となるさまざまな欲求を分析する欲求連鎖分析(WCA, Wants Chain Analysis)の開発と、それを用いたデザイン思考ワークショップの有効性に関する研究例です。利己的な欲求と利他的な欲求の関係性を明確化することで、一般のビジネスモデル、CRM(Cause Related Marketing)、社会企業、公共施策などのデザインが可能となります。方法論、手法の提案の他にも、モチベーション、共感や感動、イノベーション教育の研究など、人間に関するさまざまな研究を行っています。



WCAの提案と、それを用いたデザイン思考教育に関する研究例

人間・社会システムの問題発見と 解決策提言に関する研究



不耕作地×中高年労働者×自然栽培というソリューションとアンケート調査による研究例

社会や事業体における課題はステークホルダーが多様で、利害も複雑に関連し合っています。新規事業、起業、NPO/NGO、政治、経済、外交、防衛、文化などが関係し合う人間・社会システムにおいて、ステークホルダーの関係と物事の関係性を明確化することにより、局所解ではなく、全体最適解を求める研究を行っています。地域活性化から安全保障、幸福、平和までさまざまなテーマの研究があります。例えば、上記の例では、自然栽培という新しい農法と、耕作放棄地、中高年失業者を組み合わせる新たなビジネスモデルを提案し、新規事業を展開する実践的な研究を行っています。

全体と部分の関係を捉え直すことで、世界を変え、

多様な分野を共通の視座で捉える

慶應SDMでは科学技術領域も、社会領域も、人間領域も、全体統合されたシステムという共通の観点から捉えます。ステークホルダーやサブシステム、コンポーネントの関係を図式化、数値化して全体の構造を把握したうえで、デザインしたものを的確に作り、運用していく。それが慶應SDMの基本的なコンセプトです。

こうした考え方に立つと、ロケットも、ソフトウェアも、政策も、ビジネスも、あるいはそれらの組み合わせも、同じ目線で捉えられるようになります。例えば、新幹線は技術的には素晴らしいけれども、輸出しようとするとなかなかうまくいかない。それはビジネスや政治の面をうまく取り込んでいないからで、SDM的な発想をするとそうした複合的な問題も解いていけるようになるんですね。

もう少し詳しく説明しましょう。システムズエンジニアリングに「Vモデル」と呼ばれるプロセスモデルがあります。全体を段階的にコンポーネントに分解して評価・検証しながら統合していくという手法で、科学技術分野にも、社会にも、あるいは人間や人生といった事柄にも活用できます。例えば、私の研究室ではVモデルに従って「幸福」の研究をしています。幸福という概念を分解してみると、「人に親切にする」「友達の種類が多い」といった50個以上の要素に分解できることがわかっています。しかし、部分を取り出しただけでは、全体、つまり本当の幸福にはならない。私たちは、それらの要素がどのように関わりながら全体の幸福を形作っていくのかを研究しています。

同じように政策や経営、まちづくり、さらに芸術ですらシステムと捉えて研究している学生がいますし、さまざまな科学技術分野に取り組んでいる学生もいます。部分に分

けて階層化して考えることによって、これまでは異なる発見が生まれるし、問題が解きやすくなるんです。

ただ、もしかしたら文系の人は「アーキテクティング」といった類いの言葉に最初は戸惑いを覚えるかもしれませんね。しかし、頑張ってそこを乗り越えようと、システムティックな視点と、物事を広く捉える視野が身についてきます。今まで自分が漠然と理解してきたことがきれいに分解されて整理された形で頭に入ってくる。システムティックに物事が見えてくるし、発見も生まれる。応用力もつく。それが本当に面白い。

面白いといえば、例えば、政策提言をしている学生と宇宙ステーション開発に取り組んでいる学生が、全然違う分野なのに「今、アーキテクティングのフェーズで〜」と同じ言語で議論したりしています。これも慶應SDMならではの一体感です。

全体最適という問題意識を持つ人に

すでに何らかの専門的なコアを持っているけれどもそれだけでは問題を解けないと考えている人が慶應SDMには向いていると思います。例えば、機械工学だけではロケットを作れないし、経済学だけでは政策を作れませんよね。そういうふうに、全体最適という視点について強い意識を持っている人にとって、慶應SDMはぴったりの研究科といえるでしょう。分野は問いません。システムとして取り扱えるものならどんな分野でもいい。現状の学問だけでは飽きたらず、全体の問題として取り扱いたいという方、一緒に新しい学問と新しい問題解決策をイチから創っていこうという熱意あふれる方に、ぜひ来ていただきたいですね。

つまり、「木を見て森も見人」。それが、慶應SDMが目標とする人材の姿です。部分も

見るし、全体も見る。スペシャリストでありながら、ジェネラリスト。そういう人はリーダーに向いています。私たちは、あらゆる分野におけるリーダーになれる人を育てたいと考えています。

思いもよらない自分になれる

慶應SDMの学生は過半数が社会人で、文系と理系が半々です。経営者、エンジニア、官公庁職員、アーティスト、弁護士、医師、あらゆる職種、あらゆる年代の人が集まっています。専門分野で経験を積んで何らかの問題意識を持っている人が多いので、モチベーションがとても高いですね。授業で「何か質問のある人」と訊くと、競うように手が挙がって、熱い議論になります。だから、私も本当に楽しいんですよ。「世界を変えたいし、自分を変えたい」という熱意のある人が本当に多い。

いろんな専門分野の人がいますから、そこから刺激を得て新しいテーマに取り組んでいく人もたくさんいます。ある修士生が、「ビジネススクールに行くと思い描いていた自分になれる。慶應SDMに行くと思いもよらない自分になれる」と話してくれました。私たちはまさにそういう研究科を目指しています。

慶應SDMと一緒に創っていきましょう

学生も多彩なら教員陣も多彩です。慶應SDMは現実世界の問題を取り扱うことを重視していて、しかも扱う分野が多様ですから、専任教員のほか、特別招聘教員や、特任教員、講師として幅広い分野の企業経験、海外経験豊富な教員に来ていただいています。エネルギーで世界を変えたいと思っている方ばかりです。よくある「縦割

自分を変える場所。それが慶應SDMです。

り型」「たこ壺型」を廃したフラットな体制が特長になっています。専任型のラボだけでなく、横断型のラボもたくさんあって、ひとつのラボに複数の教員が参加しています。ラボは新しく組織されたり、多くの学生や教員が入って成長したり、終了したりと、常にアメーバのように動いています。

慶應義塾では「半学半教」というのですが、慶應SDMでは学生、教員を問わず、互いの専門性に敬意を払いながら半分教えて半分学ぶということが自然に行われています。

す。新しい学問分野だし、新しい研究科だから、教員と学生が一緒になって自分たちでどんどん創っていける。そうした雰囲気の研究科の活気につながっていると思いますね。私たちは研究・教育の最先端領域でキラキラした存在であり続けたい。だから、私は「慶應SDMは常に未完成だ」と言い続けているんです。学生と教員が一緒になって新しいことに果敢に挑みたいし、新しく入られる方にも、慶應SDMを創っていく活動にぜひ参加していただきたい。そう願っています。

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科委員長
前野 隆司



多彩なキャリアと研究分野が重なり合って、 新しい挑戦が生まれる。

専任教員



前野 隆司 まえの たかし 研究科委員長／教授
キヤノン(株)、カリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学、慶應義塾大学理工学部を経て現職。

専門分野: 人間システムデザイン(社会・コミュニティ、イノベーション、教育、地域活性化、農業、NPO、ヒューマンインタフェース、国際貢献、認知科学・哲学など)。

著書: 「思考脳力のつくり方」(角川新書)、「脳はなぜ「心」を作ったのか」(筑摩書房)など多数。



小木 哲朗 おぎてつろう 教授

三菱総合研究所、東京大学助教授、筑波大学准教授を経て現職。

専門分野: ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、臨場感コミュニケーション、ビジュアル・シミュレーション。

著書: 「サイバースペース入門」(日本実業出版社)、「シミュレーションの思想」(東京大学出版会)などがある。



神武 直彦 こうたけ なおひこ 准教授

宇宙航空研究開発機構、欧州宇宙機関を経て現職。

専門分野: 宇宙システムおよびユビキタスシステム、コミュニケーションシステム、防災システムなど社会技術システムのデザインとマネジメント。イノベティブなサービス創出。Sentinel Asia Project、Multi-GNSS Asia、クリエイティブ・シティ・コンソーシアムなど各種委員、IMESコンソーシアム代表。



佐々木 正一 ささき しょういち 教授

元・トヨタ自動車(株)。

専門分野: ハイブリッド自動車など環境調和型移動体システムのデザイン。漫画「プリウスの翼」の登場人物のひとり。平成16年度全国発明表彰経済産業大臣奨励賞受賞。

著書: 「ハイブリッド自動車の永久磁石モータ制御技術」(トリケップス社)。



白坂 成功 しらかさ せいこう 准教授

元・三菱電機(株)。

専門分野: システムズエンジニアリング、イノベーション、イノベティブデザイン、宇宙システム工学、システムアシュアランス/機能安全、標準化等。宇宙開発から社会システム、デザイン方法論、安全・安心デザインまで、世界をイノベティブにリ・デザインするための研究・教育を実施。



高野 研一 たかの けんいち 教授

元・(財)電力中央研究所上席研究員。

専門分野: 大規模技術システムにおける組織の安全文化醸成、リスクマネジメント・ヒューマンファクター。組織診断・組織活性化、事故の根本原因分析など、豊富な安全管理の実務、コンサル経験。

著書(訳書): 「組織事故」「保守事故」(日科技連出版)など。

特別招聘教員・特任教員

狼 嘉彰 おおかみ よしあき SDM研究所顧問／講師

SDM研究科前委員長・前教授、東京工業大学名誉教授。慶應義塾大学システムデザイン工学科教授、宇宙開発事業団研究総監を歴任。専門分野は、戦略的システムズエンジニアリング、複雑システムのダイナミクスと制御。

日比谷 孟俊 ひびや たけとし SDM研究所顧問／講師

SDM研究科前教授、元・首都大学東京システムデザイン研究科教授。元・NEC基礎研究所主席研究員、日本学術会議連携会員。2014年に国際宇宙ステーション欧州モジュールで融体熱物性測定実験を実施予定。

秋元 諭宏 あきもと さとひろ 特別招聘教授

三菱商事企画業務部長代行 戦略情報担当部長 国際諮問委員会事務局長。2003～2010年までワシントン事務所長。慶應SDMではSDM特別講義を担当。

金巻 龍一 かねまき りゅういち 特別招聘教授

日本IBM(株) ヴァイスプレジデント 常務執行役員 ビジネスコンサルタント。慶應SDMではインターンシップの授業を担当。

久能 祐子 くのう さちこ 特別招聘教授

Sucampo Pharmaceuticals, Inc.(NASDAQ)共同創業者兼創業CEO、現・取締役、(株)アールテック・ウエノ(JASDAQ)共同創業者、社長および会長を経て現・取締役。

グリーン ディック 特任教員

元・関西学院大学教授、シカゴ大学ビジネススクール講師、コンサルティング会社を経営。

谷口 智彦 たにぐち ともひこ 特別招聘教授

日経ビジネス誌記者、欧州特派員、ロンドン外国プレス協会会長などを経て外務省外務副報道官・広報文化交際部参事官。現在は明治大学国際日本学部客員教授など。

橋本 大二郎 はしもと だいじろう 特別招聘教授

早稲田大学大学院公共経営研究科客員教授。元・高知県知事。社会起業家など、社会貢献型の活動に関心を持って、その支援に努めている。慶應SDMではSDM特別講義を担当。

林 美香子 はやし みかこ 特任教員

キャスター・エコライフジャーナリスト。札幌テレビ放送アナウンサーを経て、独立。北海道大学大学院農学研究院客員教授。慶應SDMでは農都共生ラボ(アグリゼミ)を主宰。

慶應SDMは、大きな構想を描いて世界をリードしていける人材を育てること、そして現実世界の問題を解決していくことを重視しています。そのため、教員陣には産業界出身者や海外経験豊富な人物など、狭い学問の殻に籠らない多彩な教員を揃えています。社会のさまざまな側面を実体験してきた教員たちが学生を導き、サポートし、共に行動します。それぞれのバックグラウンドや関心分野も幅広く、慶應SDM独特の壁のない知的交流のなかで、さまざまな新しい研究や活動が生まれています。



手嶋 龍一 てしまりゅういち 教授

元・NHKワシントン支局長。ジャーナリスト。

専門分野：巨大・複雑システムをめぐるインテリジェンスとクライシスマネジメント。

著書：「ウルトラ・ダラー」「外交敗戦」(新潮社)、「インテリジェンス 武器なき戦争」(幻冬舎、共著)などがある。



当麻 哲哉 とうま てつや 准教授

元・米国3M社 Advanced Product Development Specialist。

専門分野：ブロードバンド社会の先端コミュニケーションシステムの開発とマーケット創出。グローバル企業開発技術者として海外で豊富なプロジェクトマネジメントを経験。製品の市場導入、売り上げ貢献で受賞多数。



中野 冠 なかの まさる 教授

元・(株)豊田中央研究所。

専門分野：ビジネスシステム、サプライチェーン、マーケティング、先進都市システム、環境・エネルギー・資源問題などを研究。社会システムやビジネスの問題を文理融合型手法で解くメソッドロジーの研究。日米欧アジアとの国際共同研究プロジェクトを多数経験。



西村 秀和 にしむら ひでかず 教授

専門分野：次世代モビリティ制御システム設計、モデルベースシステムズエンジニアリング、道州制のシステムデザイン。

著書：「システムズモデリング言語SysML」(監訳)「MATLABによる制御理論の基礎」(MATLABによる制御系設計)(共著)(東京電機大学出版局)など。企業等からの共同研究、講演依頼など多数。



春山 真一郎 はるやま しんいちろう 教授

ベル研究所 Member of Technical Staff (MTS)、ソニーコンピュータサイエンス研究所先端情報通信研究室リサーチ、慶應義塾大学理工学部訪問教授等を経て現職。

専門分野：ユビキタス社会におけるトータルなハード・ソフト・通信システムのデザイン、ITサービス・アプリケーション開拓、新ヒューマンインタフェース開発。



ヒジノ ケン・ビクター・レオナード 准教授

Financial Times東京特派員、英国ケンブリッジ大学東洋学部博士課程修了、日本学術振興会特別研究員、大阪市立大学客員研究員を経て現職。スウェーデン国籍。

専門分野：比較政治制度論、政党組織論、地方政治・自治の比較システム論。道州制や分権改革に関係するアクター間の利害対立や自治体レベルの合意形成過程の改善などに最近関心がある。

藤崎 一郎 ふじさき いちろう 特別招聘教授

駐アメリカ合衆国特命全権大使。慶應SDMではSDM特別講義を担当。

茂木 健一郎 もぎ けんいちろう 特別招聘教授

(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所上級研究員。脳科学をはじめさまざまなシステムのデザインに関する活動を行っている。

西山 敏樹 にしやまとしき 特任准教授

誰もが過ごしやすいユニバーサル社会システムの実現戦略をプロジェクトベースで研究。公共交通システムの公的委員多数。内外のバス事業に通じる数少ない研究者。

藤原 洋 ふじわら ひろし 特別招聘教授

(株)ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長、(株)インターネット総合研究所代表取締役所長、(株)ナノオプトメディア代表取締役会長兼社長。

保井 俊之 やすい としゆき 特別招聘教授

元・中央大学客員教授、元・金融庁参事官、前・政策研究大学院大学客員教授。「保険金不払い問題と日本の保険行政」(日本評論社)、「日本」の売り方(角川新書)等著書多数。

湊 宣明 みなとのぶあき 特任准教授

宇宙航空研究開発機構・Avion de Transport Regional, France(ATR)を経て現職。国際連携教育と持続可能な経営システム設計・管理論を研究。

村上 憲郎 むらかみの りお 特別招聘教授

(株)村上憲郎事務所代表取締役。元・グーグル米国本社副社長兼日本法人社長、前・グーグル日本法人名誉会長、国際大学グローコム主幹研究員・教授など。

吉田 篤生 よしだ あつお 特別招聘教授

吉田篤生会計事務所・所長税理士。企業の現場に密着した総合コンサルタントとして、企業再生事業承継等に取り組んでおり、独自の「会計物語論」を展開している。

矢野 創 やの はじめ 特別招聘准教授

現・宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所・学際科学研究系助教。PMP。「はやぶさ」など、日欧米で10余りの宇宙探査・実験プロジェクトに従事。

迷ったときに戻るところ。 学びの基礎に立ち返る場所です。

修了生 岩澤 ありあ

2010年春入学、2012年3月修士課程修了
2010年3月慶應義塾大学理工学部物理学学科卒業
勤務先: 電機メーカー



大学の学部では宇宙物理学の分野で研究を行っていました。慶應SDMを選んだ理由はもっと社会に寄り添った研究をしたいと思ったから。入学して、お客様からの要求を聞き出し、その定義を文章化していくことを学べたことはよかったです。相手にきちんと伝えるためには使う言葉をしっかり定義することが大切だと最初に教われました。慶應SDMで印象に残っている授業はデザインプロジェクトです。6人のチームに分かれて実際の企業から出された課題に約7カ月間にわたって取り組みます。私たちは自転車事故を減らすための自転車シミュレーターを設計するという課題を与えられたのですが、まず自転車事故が起きる要因を調査し、そもそもシミュレーターを作ることが最善の解決策なのか問い直すことから始め

ました。事故統計を調べたり、自転車店、国土交通省、関連団体といったステークホルダーにインタビューしたりと、自分たちの足を使って生の情報にアクセスしました。最終的にシミュレーターの形にまとめるだけでなく、特許を調べてビジネスモデルを考えるとまで踏み込んだのも貴重な経験でした。慶應SDMで学ぶことによって、世の中のあらゆるものを見て興味を持ち、それが生まれた背景について考えられるようになりました。ものの見方が変わりましたね。この春、電機メーカーに就職しました。大きな製品を扱うのでとても1人では実現できません。慶應SDMで学んだチームワークやコミュニケーション力を活かしながら、一緒に仕事をしていると安心してきて楽しいと思われるエンジニアを目指していきたいです。

在学生・修

スキルアップと同時に 世界が広がっていく。

在学生（後期博士課程） 大塚 有希子

2010年春入学
2010年3月大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了
勤務先: (株)富士ゼロックス総合教育研究所



現在、シンクタンクに勤務しており、ITや金融、流通系の企業におけるプロジェクトマネジメントのコンサルティングを行っています。慶應SDMに入学したのはプロジェクトマネジメントについてより深く研究し、スキルを高めたかったから。博士課程では授業に出席する義務はありませんが、興味のある内容は積極的に聴講しますし、仕事があって学校に行けない場合もe-learningで学ぶことができます。その他の時間は担当教員と相談しながら論文を執筆しています。私の研究テーマはプロジェクトマネジャーのコン

ピテンシーについてで、過去の論文では、IT系のプロジェクトマネジャー200人にアンケートを取り、マネジメントのやり方とプロジェクトの成功の関連についてまとめました。現在はプロジェクトを成功させるプロジェクトマネジャーにはどんな特質があるかというテーマで、性格や仕事のやり方、部下への接し方などを調べているところです。博士課程では担当教員と二人三脚で進めていくのが普通ですが、慶應SDMのよいところは担当以外の先生もよく面倒を見てくださることです。例えば「こんな本を読んでい

る」とある先生に話すと、それを翻訳しているチームや勉強会に誘ってくれたり。頭でっかちではなく、リアルに踏み込んだ世界を紹介してもらえます。今はある先生の薦めで、プロジェクトマネジメントの国際資格を取るための集中講義の講師を務めています。そうしたさまざまなチャンスや情報に好奇心を持ってどんどん食らいついていけば、慶應SDMはとても楽しく学べる環境だと思います。



本当にやりたいことがあれば 何でもやれる自由度の高さがあります。

修了生 川合 潤

2009年秋入学、2011年9月修士課程修了
1999年5月Boston College, Arts and Science (Physics) 卒業
勤務先: ソニー(株)

ソフトウェアエンジニアとして働きながら慶應SDMに通いました。会社が終わってから学校で授業を受け、グループワークを行い、深夜に帰宅して宿題や研究をこなすという生活です。1日睡眠3時間以下というきつい期間もありましたが、毎日刺激的で何もかもが楽しかったので続けられたと思います。仕事を続けながら学ぶのもいいと思いますね。学校で習ったことを次の日会社で実際に使ってみることができ、うまくいかなければすぐに先生に相談できるから。また、会社と学校という異なる環境を行き来すること

で僕自身のリフレッシュにもなりました。専門外のさまざまな授業を積極的に受け、ある授業をきっかけに、本来の専門とは違うテーマである人材の能力開発について研究しました。先生に相談して研究ラボを作り、納得するまでやりました。本当にやりたいことがあれば何でもやれる自由度の高さが慶應SDMにはあります。この研究が後押しする形で、以前より興味のあった人事部に希望して異動し、今はエンジニア育成や教育の仕事をしています。直接モノづくりに携わるだけでなく、全体最適の

視点で人材の能力を高めていくことも大きな貢献ではないかと思うようになったのです。現在の人事も個別最適化されているところがある。しかし、会社全体として本当にこれでいいのか整理してみたいと今、考えています。もし慶應SDMに行かなかったらエンジニアを辞めていなかったでしょうね。僕にとって慶應SDMとは次のステージに行くための試練の場みたいなものでした。特に、専門性を持ちながらも全体像をつかみ切れていないことにストレスを感じている人にお薦めしたいですね。

了生の声

知識を結ぶネットワークが見えてきた。

農学部を卒業後、民間企業に勤務していました。研究職に始まり、商品開発、品質管理、営業と経験するうち、日本の仕組みそのものに対する問題意識が生まれてきて、会社を辞め、慶應SDMに入りました。他業種の人の知見や対話を得られる環境を求めていたのです。授業ではプログラミング、シミュレーション、統計、哲学と幅広い領域を網羅するため最初はとにかく必死でカリキュラムをこなすだけでした。しかし、システムという物事を動かす本質を勉強していると、やがてひとつひとつの知識を結ぶ共通項やネットワークが見えてくるんですね。思考がドライブするというか、頭の中で物事がどんどんつながっていく。扉をぶち破ったような感覚があって、とても楽しかったです。慶應SDMは留学のチャンスも豊富で、私も入学してからパリにある専門大学院のプロ

グラムに参加しました。研究もさることながら、日本とフランスの考え方の違いにふれることができたことが大きかったです。留学はチャンスがあればぜひチャレンジすると思います。ロジカルシンキングやコミュニケーションといったテクニカルな授業も今の仕事に生きています。勉強の量が尋常じゃないし、内容のレベルも高い。他の学生はライバルだと考えていたので、毎日が戦いでした。でも、頑張った分だけ自分の身になるフェアな場所、それが慶應SDMだと思います。現在は国土交通省で東日本大震災の復興事業に関わっています。まさにこれこそ複雑で大規模なシステムの問題であり、慶應SDMで勉強したことをぶつけていかなければならない仕事です。今後何十年かかるかわかりませんが、自分の人生をかけるつもりで取り組んでいます。



修了生 高峯 聡一郎

2008年秋入学、2010年9月修士課程修了
1999年3月東京農工大学農学部卒業
勤務先: 国土交通省

研究科全体がひとつのコミュニティです。

修了生 辻 英美子

2008年春入学、2010年3月修士課程修了
2008年3月慶應義塾大学理工学部情報工学科卒業
勤務先: (株) 野村総合研究所



新卒で慶應SDMに入って、最初に驚いたのはとても意欲的な社会人学生の方が多いことでした。例えば、授業で質疑になると、みんなが質問しようと手を挙げて、そこから熱い議論になるんですね。ある人が「情報システムの世界では～」と話すと、別の人が「宇宙開発の場合は～」と話したりする。そうしたジャンルを超えた議論がとても刺激的で面白かったです。

入学する前、慶應SDMは、すでに何らかの専門性を持つ人が物事を広く見る視点を学ぶところなのかな、という印象を持っていました。新卒だとまだそれほど専門性を身につけているわけではありませんから、本当に社会に役立てる人材になれるのか、ちょっと心配だったんですね。でも、実際には、授業や研究を通じて、全体を見る視点を持つと同時に、専門性も深めていくことができます。

私の場合は入学前から環境について何かやりたいと考えていたこともあって、太陽光発電と蓄電池を世帯間で共有するシステムについて専門的に研究しました。

一方で面白いのは、そうした専門的研究についてもいろいろな方から幅広い意見をいただけることです。例えば、電力の問題についても、文系出身の方からは企業や政府の視点について教えていただきました。慶應SDMは、社会人・新卒、文系・理系、年代、国籍、本当にさまざまなバックグラウンドの方がいて、しかも研究室の垣根を超えて研究科全体がひとつのコミュニティという感じでした。今でも修了生で集まることありますが、モチベーションが高くて新しい分野に挑戦されている方が多い。「今、何をしていますか？」とお話を聞くだけで、新しい世界が開ける感じです。

在学生・修

自分の発見したいことを探し、 自分自身を探求できる。

在学生(修士課程) ジョン・テイントン

2011年秋入学
2008年11月 University of Pretoria, Department of Systems & Industrial Engineering 卒業
前職: 自動車メーカー現地法人



南アフリカの大学を卒業した後、日本の自動車メーカーの現地法人で約3年勤務し、現在は奨学金で留学しています。大学ではインダストリアルエンジニアリングについて学び、会社ではサプライチェーンマネジメントや設備計画などに携わっていました。慶應SDMを選んだ理由は、システムズエンジニアリングの知識を深めたかったことと、マネジメントだけでなくデザインやクリエイティビティについても学びたかったからです。クリエイティビティには多視点でものを見て、それらを統合させることが大切だと思いま

す。南アフリカと日本は全く文化や考え方が異なります。常に人とは違う視点を持つのが留学生のメリットです。例えば、南アフリカでは仕事とプライベートは完全に切り離されますが、日本ではその境界があいまいです。こうした違いから学んで、スタッフの人材育成やマーケティング活動などに役立てることができそうです。

慶應SDMの学生は皆オープンで互いに助け合う精神があります。初めは日本語が難しく緊張していましたが、学生が集まっている「大部屋」に行けば気軽に何でも話せる

のでリラックスして留学生活を送っています。慶應SDMは自分の発見したいことを探せる場所であると同時に、自分自身を探求するための場所。卒業したらここで学んだことを活かして起業したいと考えています。キャンパスではKBS(慶應ビジネス・スクール)やKMD(慶應メディアデザイン研究科)の学生との交流も活発なので、多分野の人脈を築きながらいろいろなアイデアについて話し合っていきたいです。



いろいろな人に出会える。 自分の幹が太くなる。

在学生(修士課程) 森 崇

2011年春入学
2003年3月京都大学総合人間学部卒業
前職:ソフトウェアベンダー

ソフトウェアのセールスエンジニアの仕事を5年ほど経験してから慶應SDMに入りました。志望理由は工学の勉強と、物事をシステムとして捉える勉強を同時にやりたかったからです。実際に入学してみて、システムズエンジニアリングについて体系的に教えていることに感銘を受けました。

1年目のデザインプロジェクトでは、日本企業のベトナムにおけるオフショアビジネスを円滑に進める方法について、5人のチームで取り組みました。当事者や専門家にヒアリングすることから始め、ベトナムの地域性や人

の性質などを含むベトナム企業側の課題だけでなく、社内コミュニケーションなど日本企業側の課題についても調べたうえで、解決策を提案しました。たまたまある展示会を視察した際、素人だった私たちの提案と同じアイデアが最新製品として発表されていて、驚いたと同時に、慶應SDMで学んでいる内容がいかにも実践的であるかを実感できました。

今は西村秀和先生のラボに所属していて、モデルベースシステムズエンジニアリングの表記法のひとつであるSysMLの実用書に関

する翻訳プロジェクトのお手伝いをしながら、基本的な考え方をマスターできました。一方、林美香子先生のラボでは東北地方を視察して、地元の人々や役場の方と協働で観光ツアーを企画して実施するというプロジェクトも経験しました。

慶應SDMはいろいろな分野の人に出会う機会の多い場所だと思います。そして、システムズエンジニアリングやデザイン思考という根っこを持つことでそうした出会いからいろいろな視点を学ぶことができ、自分の幹を太くしてくれていると思います。

了生の声

生きていくための基礎を整えられるところです。

中国・瀋陽の大学を卒業して電機メーカーに3年ほど勤務した後、システムズエンジニアリングやロジカルな思考について学ぶため、慶應SDMの第1期生として日本に留学しました。新しい大学院なのでどんな人があるのか楽しみでしたが、個性的でパワフルな社会人が多く、年齢層も業界も幅広くとても面白かったです。皆さん発言力や行動力があって、時にぶつかることもありましたが、人との接し方なども勉強になりました。当時は第1期ということもあり、先生と学生が一緒に模索しながら新しい学問を作っていくという雰囲気でした。研究テーマも自分で選べるし、メソッドも自由。それだけに学生が主体的に取り組まなければなりません。先生方もきちんと目を配ってサポートしてくださいました。

今の会社では資材の購買を担当していま

す。社内ですさまざまなプロジェクトが進んでおり、システムズエンジニアリングで学んだことを日々使いこなしているという感じです。大きな問題に見えるものもVモデルで分解していくと要素がはっきりするので対応しやすくなります。また、サプライヤーとの交渉の際は、価値観の違いを理解したうえでお互いが納得できるように進めなければなりません。その際には授業で学んだ思考のパターン、物事を考える流れ、コミュニケーションの方法がとても役に立っています。

慶應SDMはこれから生きていくための基礎を整えられる場所だと思います。知識だけでなく考え方や視野も含めて、世界で活躍するためのベースを得ることができます。私も今後はもっとキャリアを積んで、日本や母国だけでなくさまざまな国で働いてみたいですね。



修了生 李明

2008年春入学、2010年3月修士課程修了
2003年7月遼寧大学経済学部卒業
勤務先:住友スリーエム(株)

基礎データ

2012年7月現在

教員数

専任教員	特別招聘教員	特任教員	講師(非常勤)	訪問教員
12名	13名	9名	28名	11名

男女比(在学生)

2012年4月現在

男女	修士	博士
男	107	44
女	40	14
計	147	58

留学生の国籍

2012年4月までの受入実績

イタリア、イラン、インド、インドネシア、オランダ、サウジ・アラビア、シンガポール、スウェーデン、スロバキア、タイ、デンマーク、ドイツ、フランス、ペルー、モロッコ、大韓民国、中国、中国(香港)、中国(台湾)、南アフリカ、米国

年齢分布(在学生)

2012年4月現在

年齢	修士	博士
22～24歳	61	0
25～29歳	31	6
30～34歳	17	7
35～39歳	14	13
40～44歳	13	13
45～49歳	5	9
50～54歳	4	6
55～59歳	1	1
60歳～	1	3
計	147	58

社会人経験者の出身業種

2012年4月現在

社会人経験者(入学時に在職の方。Webエントリーに基づく)	
修士	60
博士	48
計	108

※業種分類は入試のWebエントリーの分類に基づく

業種別	人数
農林・漁・鉱業	1
建設業	1
製造業	21
情報通信業	22
運輸業	4
卸売・小売業	2
金融・保険業	5
不動産業	2
医療・福祉	4
教育・学習支援	8
サービス業	9
公務員	17
その他	12
計	108

過去の主な進路

(博士課程進学を除く)

中央官庁、地方公務員、大学、CSKホールディングス、DIJネクスト、iDC、KDDI、Meiji Seika ファルマ、NTTデータ、UBS証券会社、アクセンチュア、アジレント・テクノロジー・インターナショナル、アメジスト、イーソリューションズ、インナーライズ53、インフォコム、ウォルト・ディズニー・ジャパン、エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、キヤノン、コーエーテクモホールディングス、コクヨ、コムシス情報システム、スズキ、スタンレー電気、ソニー、トヨタテクノクラフト、トヨタ自動車、トヨタ紡織、ドン・キホーテ、ナノオプトニクス・エナジー、ニッセイ情報テクノロジー、ブリヂストン、ポッシュ、みずほ証券、モードツー、ヤフー、ヤマハ、ユニクロ、ランド・ハウス工業、リクルート、リコー、リコーITソリューションズ、レオズ・インターナショナル、ロイヤルバンク・オブ・スコットランド・ピーエルシー、ワークスアプリケーションズ、宇宙航空研究開発機構、神奈川県民共済生活協同組合、国際石油開発帝石、志学館、清水建設、新生銀行、住友スリーエム、住友精密工業、住友生命保険、住友電工情報システム、損害保険ジャパン、大成建設、千代田アドバンスソリューションズ、電通、電通国際情報サービス、電力中央研究所、東京海上日動リスクコンサルティング、東京ガス、東京証券取引所、東京電力、東芝、東北電力、日和産業、日本アイ・ビー・エム、日本イーライリリー、日本インターグラフ、日本銀行、日本経済新聞社、日本コムシス、日本電信電話、日本ビューレット・バックカード、日本有人宇宙システム、野村證券、野村総合研究所、日立グローバルストレージテクノロジーズ、日立製作所、富士ゼロックス、本田技術研究所、丸紅、三井住友海上火災保険、三井物産メタルズ、三菱総合研究所、三菱電機、三菱ふそうトラック・バス、三菱UFJインフォメーションテクノロジー、村田機械

修了後のキャリア

システムの視座を持つリーダーへ。そして、その先へ。

産業界では、大規模・複雑システムをデザインし、プロジェクトを的確にマネジメントしながら成功に導ける人材のニーズが非常に高まっています。慶應SDMでシステムズアプローチを習得し、プロジェクトリーダーや経営者となる素養を身につけた修了生は分野を問わず活躍しています。

社会人修了生～SDM学を活かしてリーダーシップを発揮

社会人経験のある修了生は、技術系ならば、シニアプロダクトマネジャーや、システムアーキテクト、ハードウェアやソフトウェア開発のディレクターとして活躍しています。社会科学系ならば、サービス産業のシニアマネジャーやディレクター、コンサルタント、事業会社の戦略企画マネジャーなどの立場で戦略企画に参画し、システムズエンジニアリング

やデザイン思考を活かしてリーダーシップを発揮しています。また、会社経営に進む者、公務員やNPO/NGO職員として国家や地方のために活躍する者、教育・研究、法曹など専門職として能力を活かす者など、多彩な人材を送り出しています。

新卒修了生～未来のリーダーへ

新卒者は、プロジェクトに貢献しながら必要な経験を積み、近い将来、大規模・複雑システムの構築、運用を任せられるプロジェクトリーダーに成長することが期待されています。また、自らベンチャー企業を立ち上げて起業家となる者や、博士課程に進学して

SDM学の研究や普及に取り組んでいる者もいます。

国際的な人的ネットワークを形成

このように、慶應SDM修了生の活躍の場はあらゆる業界に広がっています。慶應SDMで育った修了生は国際感覚豊かで異文化への対応力があるため、国内、海外を問わず力を発揮できることが強みとなっています。また、修了生がいろいろな業界のキーパーソンとして活躍しているため、慶應SDMで培われた人的ネットワークがビジネス上の貴重な財産となっており、そこから新たなビジネスチャンスも生まれています。

国際教育連携

慶應SDMはSDM学の教育方法を、システムズエンジニアリングの先端研究を行っているマサチューセッツ工科大学 (MIT、アメリカ)、デザイン思考で知られるスタンフォード大学 (アメリカ)、およびデルフト工科大学 (オランダ) と共同開発し、「デザインプロジェクト」等の科目で実践して、改善を重ねています。また、研究科独自の留学制度も用意しています。MIT、スタンフォード大学、デルフト工科大学、フランス国立理工科大学トゥールーズ校 (フランス)、ミラノ工科大学 (イタリア)、スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (スイス)、パデュー大学 (アメリカ)、アデレード大学 (オーストラリア) 等との交流があり、毎年、多くの学生が留学に旅立っています。留学先で取得した単位は、修了に必要な単位として認定されることがあります。また、MITのSDMやデルフト工科大学などから多くの学生が慶應SDMに学びに来ています。



留学実績

大学名	留学者数			
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度(予定)
マサチューセッツ工科大学 (MIT)	派遣1名	派遣1名 受入1名	-----	派遣未定 受入3名
スタンフォード大学	派遣1名 受入1名	派遣なし 受入1名	派遣なし 受入1名	派遣未定 受入未定
デルフト工科大学	派遣3名 受入3名	派遣5名 受入5名	派遣2名 受入3名	派遣6名 受入6名
フランス理工科大学 (INSA) トゥールーズ校	-----	派遣3名 受入なし	派遣3名 受入なし	派遣1名 受入2名
ミラノ工科大学	-----	派遣2名 受入1名	派遣なし 受入2名	派遣2名 受入1名
スイス連邦工科大学チューリッヒ校	-----	派遣2名 受入1名	派遣1名 受入2名	派遣1名 受入3名
パデュー大学	-----	-----	派遣2名 受入1名	派遣未定 受入2名
アデレード大学	-----	-----	-----	派遣未定 受入未定

設置研究科・専攻	募集人員	授与する学位
システムデザイン・マネジメント研究科	修士課程 77名	修士 (システムエンジニアリング学) 修士 (システムデザイン・マネジメント学)
システムデザイン・マネジメント専攻 (修士課程／後期博士課程)	後期博士課程 11名	博士 (システムエンジニアリング学) 博士 (システムデザイン・マネジメント学)

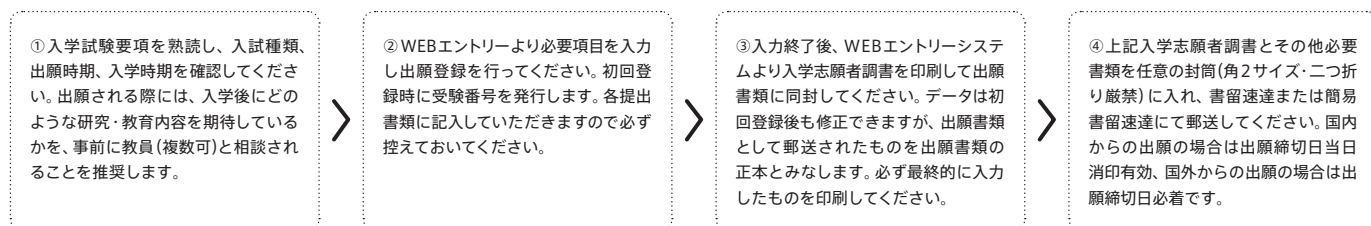
必要な経費	修士課程	後期博士課程
2012年9月入学者	1,223,850円	848,850円
2013年4月入学者	2,082,600円	1,332,600円
2013年9月入学者	1,141,350円	766,350円

※学費は年度ごとに納めていただきます。9月入学者の金額は秋学期分のみとなります。
※2013年度の費用は変更される場合があります。

奨学制度	給付額
慶應義塾大学大学院奨学金	給付年額 600,000円 (期間:1年間)
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付月額 30,000円 (期間:1年間)
日本学生支援機構奨学金	修士 貸与月額 (第1種) 50,000円 または 88,000円
	後期博士 貸与月額 (第1種) 80,000円 または 122,000円
指定寄付奨学金 (三田会等)	
地方公共団体・民間団体奨学金	
大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別奨学金	

出願方法

※詳しくは、慶應SDMウェブサイトをご覧ください。 <http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/>



出願・選考日程	I 期	II 期	III 期
Webエントリー期間 ※1	2012年6月13日(水)～6月25日(月)	2012年8月31日(金)～9月12日(水)	2012年12月26日(水)～2013年1月11日(金)
出願期間 ※2	2012年6月20日(水)～6月25日(月)	2012年9月7日(金)～9月12日(水)	2013年1月7日(月)～1月11日(金)
1次選考合格発表	2012年7月6日(金) 午後1時	2012年9月28日(金) 午後1時	2013年1月25日(金) 午後1時
2次選考	2012年7月14日(土)・7月15日(日)	2012年10月6日(土)・10月7日(日)	2013年2月2日(土)・2月3日(日)
2次選考合格発表	2012年7月18日(水) 午後1時	2012年10月10日(水) 午後1時	2013年2月5日(火) 午後1時

※1 Webエントリーシステムは出願締切日まで稼働しています。

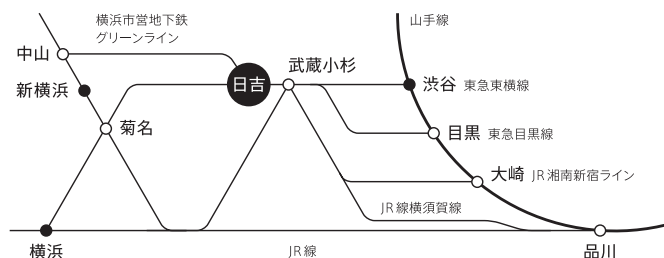
※2 日本国内からの出願は締切日消印有効、日本国外からの出願は締切日必着です。

 慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

Tel:045-564-2518 Fax:045-562-3502 E-mail:sdm@info.keio.ac.jp

www.sdm.keio.ac.jp



交通アクセス:「日吉」駅直結(東急東横線、東急目黒線、横浜市営地下鉄グリーンライン)

●渋谷～日吉:急行18分(通勤特急16分)、横浜～日吉:急行12分(通勤特急10分)、新横浜～日吉:14分

●東急東横線の特急は日吉駅には停まりません。